

映画 夜空はいつでも 最高密度の青色だ



都会を好きになった瞬間、自殺したようなものだよ。
塗った爪の色を、きみの体の内側に
探したってみつきりやしない。
夜空はいつでも最高密度の青色だ。
きみがかわいそうだと思っているきみ自身を、
誰も愛さない間、きみはきっと世界を嫌いでもいい。
そしてだからこそ、この星に、恋愛なんてものはない。

(詩集『夜空はいつでも最高密度の青色だ』より「青色の詩」)

『舟を編む』の石井裕也監督最新作。

2017年、渋谷、新宿。二人は出会う。東京の片隅で、信じられるものを探しながら
優しく生きようとする若い男女を描いた、最高密度の恋愛映画、誕生！

2016年5月に発売され、現代詩集としては異例の累計27,000部の売上げを記録している、最果タヒによる詩集「夜空はいつでも最高密度の青色だ」。最果タヒは、2008年に当時女性では最年少の21歳で第13回中原中也賞を受賞するなど、「いま最も新しい表現者」として注目されている詩人だ。現代詩が持っていた「難解」なイメージを覆し、わかりやすく日常的な言葉の連なりで、小説やポップソングやマンガやアニメだけではつかみきれない、現代人の憂鬱や希望を浮き彫りにする。そんな彼女の詩集が、誰も予想していなかったかたちで映画化、いま恋愛映画として生まれ変わる。

監督は、『舟を編む』で第37回日本アカデミー賞最優秀作品賞や監督賞他、多くの賞を受賞した石井裕也。詩集の映画化というチャレンジな試みでありながら、現代の東京の片隅に生きる若い男女の、言葉にならない感情の震えを映像にすくい取り、優しく愛おしい、繊細な恋愛映画として完成させ、石井裕也の代表作と言える傑作となった。

「東京には1000万人も人がいるのに、どうでもいい奇跡だね。」

ヒロインの美香に抜擢されたのは新人^{いしはしずか}石橋静河。看護師をしながら夜はガールズバーで働き、言葉にできない不安や孤独を抱えながらも、誰かに甘えることもせず日々をやり過ごす美香を全身で演じる。そんな美香と出会う慎二に池松壮亮。工事現場で日雇いの仕事をしながら死の気配を常に感じ、どこかに希望を見出そうとひたむきに生きる青年を、稀有な存在感で演じる。また、慎二と同じ工事現場で働く仲間、田中哲司と松田龍平。リアリティ溢れる演技で彼らの抱く苛立ちや切なさを見事に表現した。さらに『シン・ゴジラ』での演技で話題を集めた市川実日子や、佐藤玲、三浦貴大など、本作らしいフレッシュな顔ぶれが揃っている。空回りする言葉や死が溢れる都会の夜に、偶然に出会う美香と慎二。絶望と希望のはざまに、二人は少しずつ前へ進もうとする――。

2017年現在の東京を舞台に、孤独と希望を全く新しい言語で織り上げた、最高密度の恋愛映画が誕生した。

「俺って変だから」「へえ、じゃあ私と同じだ」

愛おしい不器用さに溢れた、この映画が私の詩集をもとに作られたという。願わくは、多くの人に観てほしい。自分自身の「今」を不器用な手つきで抱きしめようとするすべての人に。
——最果タヒ

出 石橋静河 池松壮亮

演 佐藤玲 三浦貴大 ポール・マグサリン / 市川実日子 / 松田龍平 / 田中哲司

監督・脚本：石井裕也(『舟を編む』)

原作：最果タヒ(リトルモア刊「夜空はいつでも最高密度の青色だ」) エンディング曲：The Mirraz「NEW WORLD」

撮影：鎌形洋一 照明：宮岡謙史 録音：加藤大和 高須賢健基 美術・装飾：渡辺大智 編集：曾嶋信一 音楽：渡邊 巖 写真：木森克己 アニメーション：松丸 翔 衣裳：立花文乃 ヘアメイク：豊川京子 音響効果：柴崎憲治 VFXプロデューサー：赤羽智史
助監督：石井 純 製作担当：美林直人 キャスティング：福田真弓 製作渉外：藤田光彦 海外担当：荒木啓子 宣伝プロデューサー：中野朝子
企画：孫 家邦 菊地美世志 赤須恵祐 プロデューサー：有賀高俊 土井智生 五箇公典



5/13(土)より新宿ピカデリー・ユーロスペースにて先行公開

5/27(土)より全国ロードショー

製作プロダクション：フィルムメイカース リトルモア
製作：テレビ東京 東京テアトル ボニーキャニオン 朝日新聞社 リトルモア
総経：東京テアトル リトルモア
©2017「映画 夜空はいつでも最高密度の青色だ」製作委員会
yozora-movie.com